

# 平成29年度 燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査 (第8回 7月下旬分)

香川県水産試験場 環境資源部門 (藤田)  
TEL 087-843-6511/ FAX 087-841-8133

## ○カタクチイワシ卵の出現状況

卵が前年、平年と同程度出現した。

前年	平成28年7月22日	(17点の平均)	10.2 個/m <sup>3</sup>
前回	平成29年7月6日	(7点の平均)	23.6 個/m <sup>3</sup>
今回	平成29年7月14日	(17点の平均)	10.4 個/m <sup>3</sup>
※7月下旬の平年値			8.9 個/m <sup>3</sup>

## ○カタクチイワシ仔魚の出現状況

仔魚の出現数は前年、平年より少なかった。

前年	平成28年7月22日	(17点の平均)	2.8 尾/m <sup>3</sup>
前回	平成29年7月6日	(7点の平均)	1.3 尾/m <sup>3</sup>
今回	平成29年7月14日	(17点の平均)	0.4 尾/m <sup>3</sup>
※7月下旬の平年値			9.4 尾/m <sup>3</sup>

## ○プランクトン調査

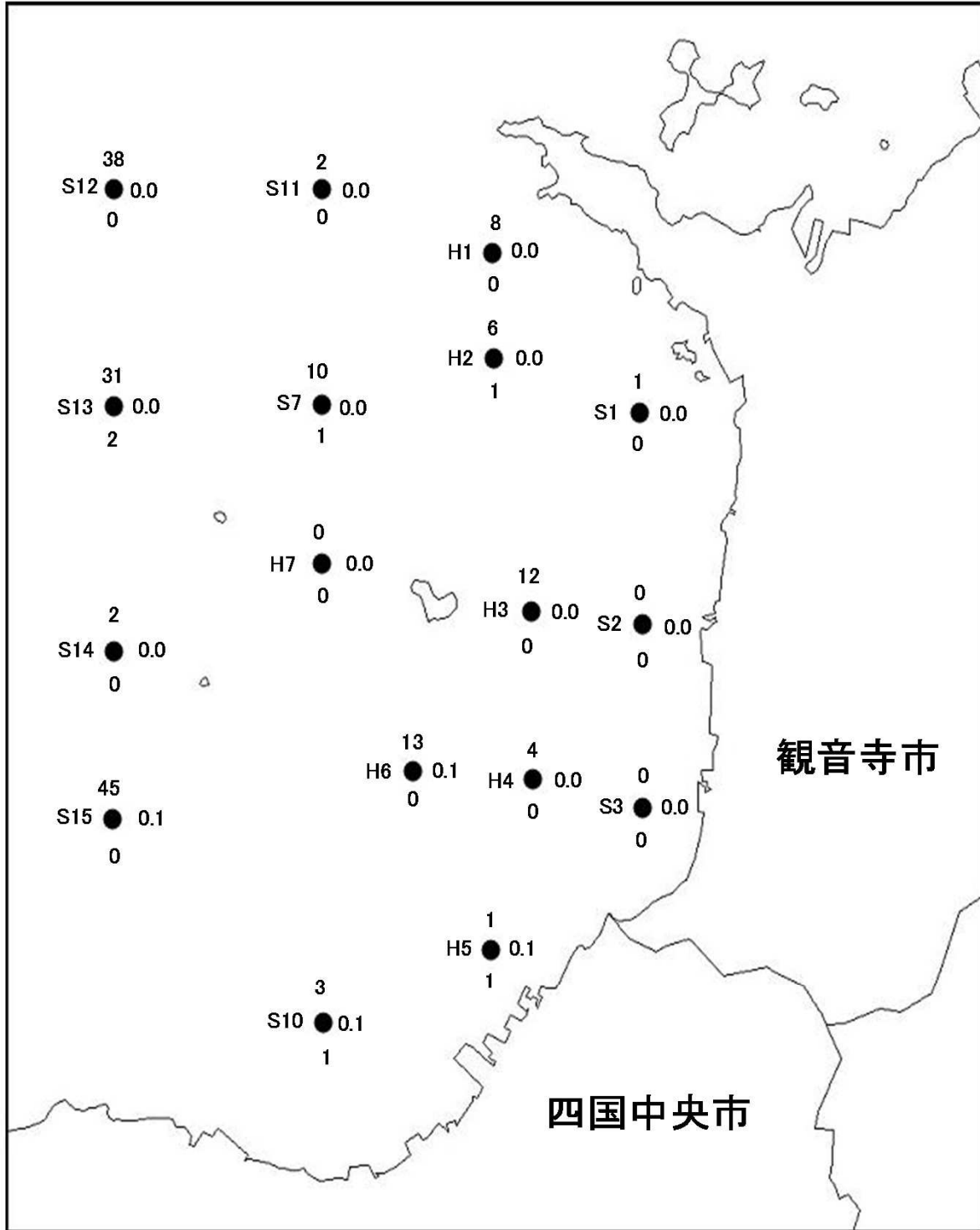
プランクトン量ではミジンコ類(ペニリア)が多かった。  
カタクチイワシの餌となるカイアシ類量は平年より少なかった。

## ○クラゲ調査

カブトクラゲが前年より大幅に多く出現した。

次回の調査は8月1日(火)の浅海定線調査に合わせて実施予定

カタクチイワシ卵稚仔採集状況(2017/7/14)



●の上側がカタクチイワシ卵数/m<sup>3</sup>を  
下側がカタクチイワシ稚仔数/m<sup>3</sup>を、  
右側がカイアシ類量(ml/m<sup>3</sup>)を示す。

※カイアシ類量は、プランクトン採集量

(0.335mm以上)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出した概算値。

※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値。

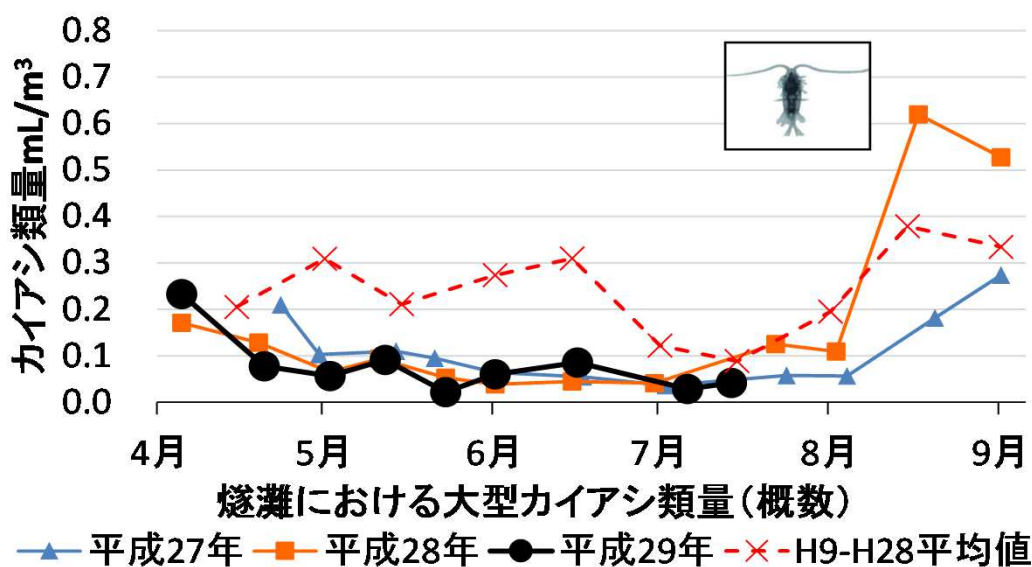
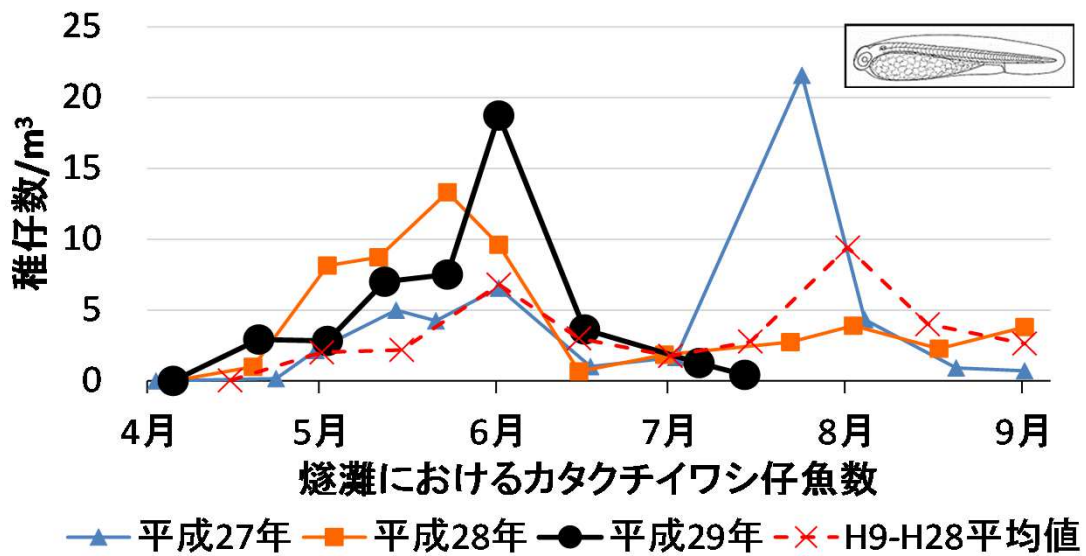
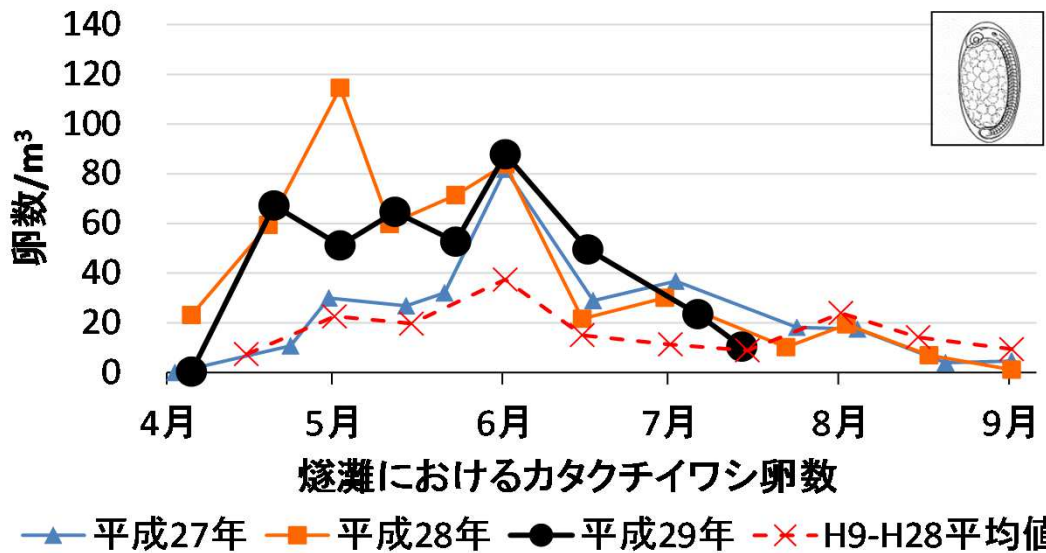
21 ← 卵数  
凡例 ● 0.6 ← カイアシ類量  
5 ← 稚仔数

平成29年度燧灘カクチイワシ卵稚仔調査(8回目)

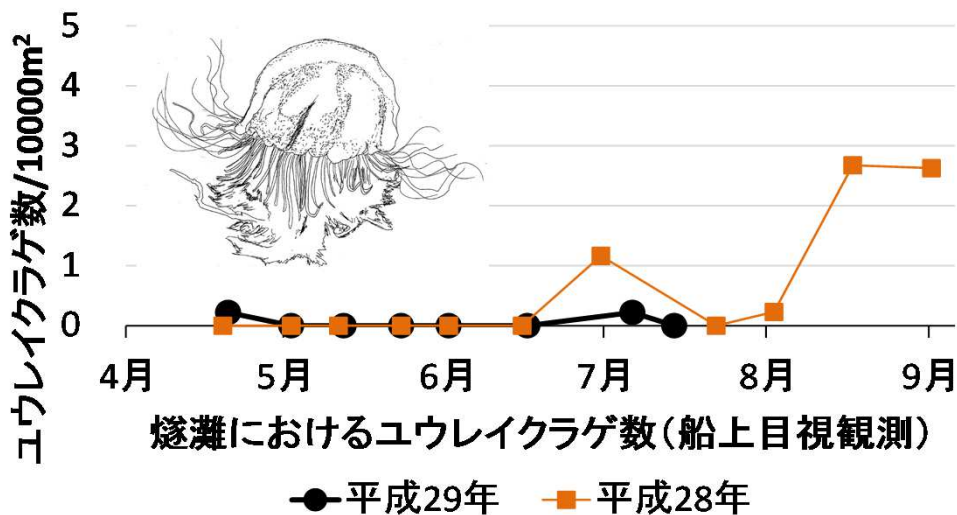
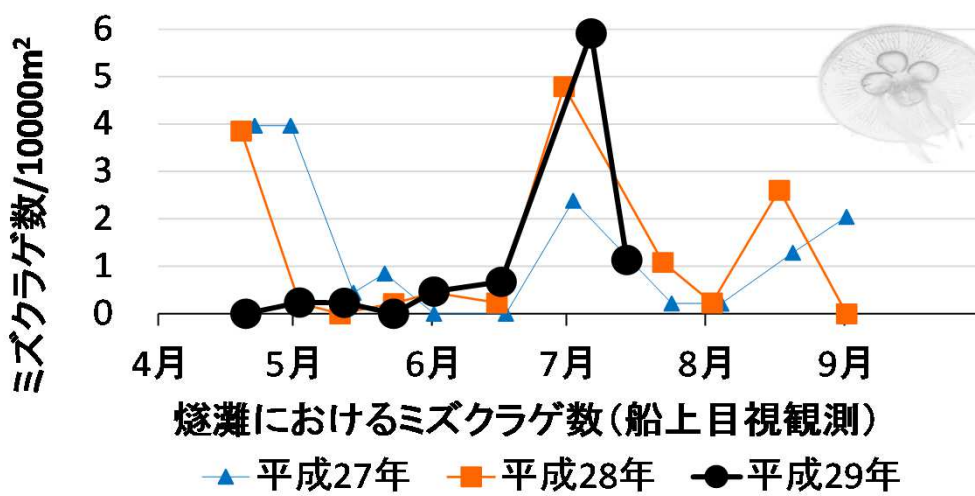
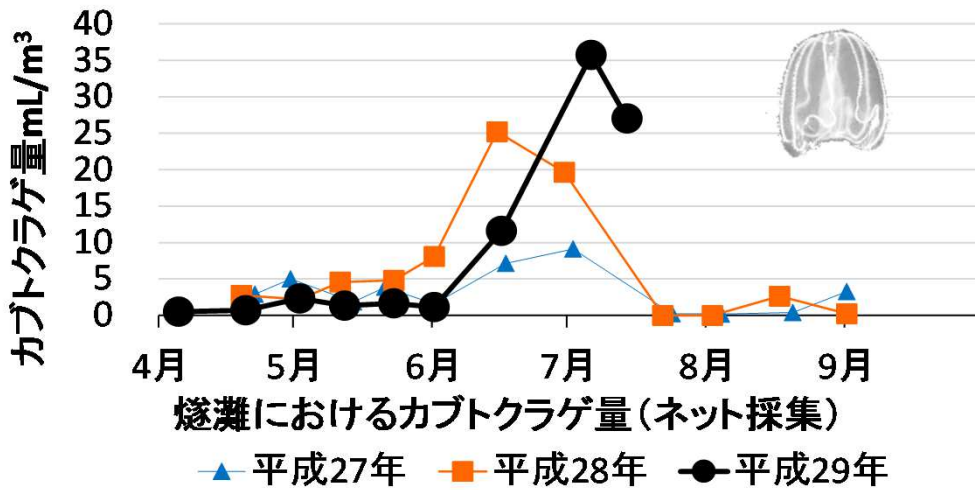
調査日: 2017/7/14

S T	曳網水深 (m)	表層水温 (°C)	カクチ卵	マイワシ卵	その他卵	カクチ稚仔	マイワシ稚仔	その他稚仔
H1	20	27.8	8	0	4	0	0	0
H2	20	27.6	6	0	2	1	0	0
S1	20	26.3	1	0	1	0	0	0
S2	20	28.4	0	0	3	0	0	0
H3	20	27.9	12	0	5	0	0	0
S3	20	28.0	0	0	3	0	0	0
H4	20	27.6	4	0	2	0	0	0
H5	20	28.2	1	0	2	1	0	1
S10	20	28.8	3	0	6	1	0	2
H6	20	28.0	13	0	5	0	0	0
H7	20	25.8	0	0	2	0	0	1
S7	20	25.8	10	0	9	1	0	1
S11	20	26.4	2	0	4	0	0	0
S12	20	25.0	38	0	4	0	0	0
S13	20	24.9	31	0	5	2	0	0
S14	20	26.1	2	0	1	0	0	0
S15	20	28.9	45	0	35	0	0	2
7点平均		27.5	6	0	3	0	0	0
平均		27.1	10	0	5	0	0	1

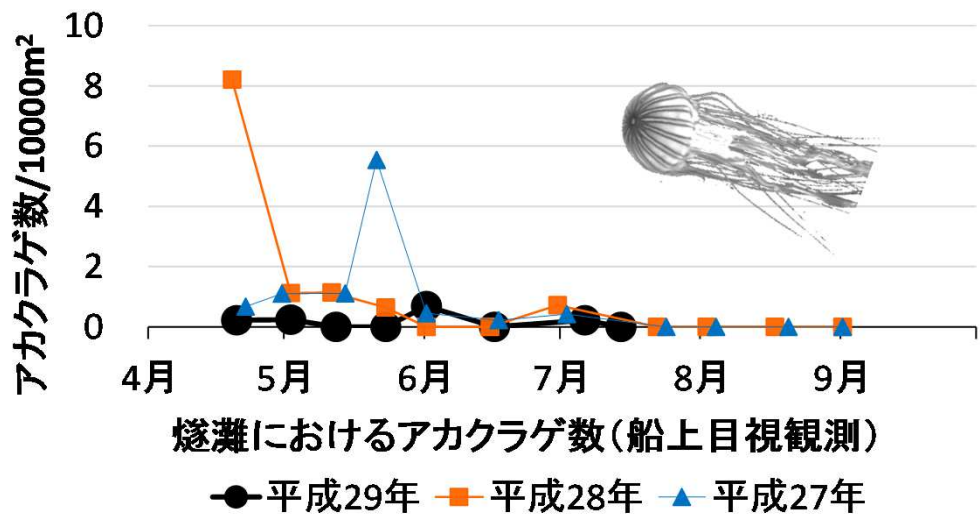
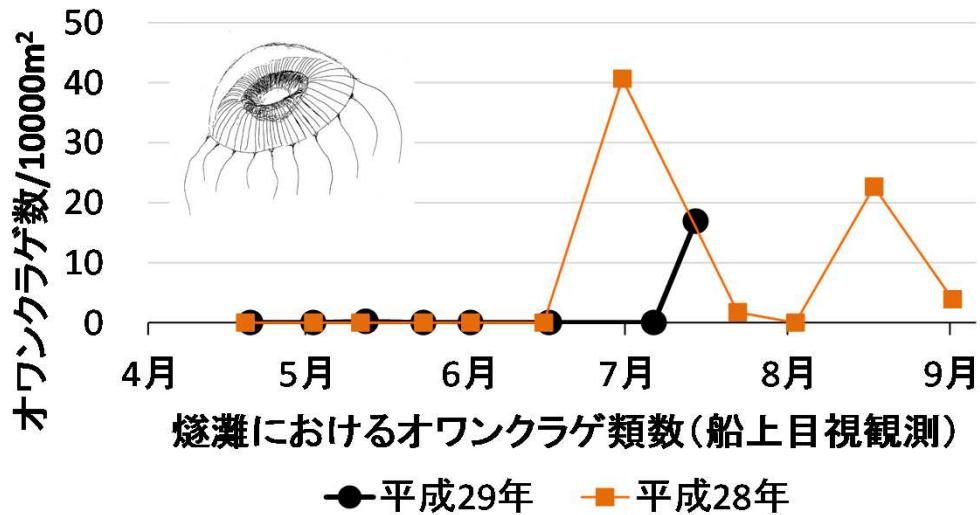
※7点平均は浅海定線調査を行っているH1～H7の平均 ※採集数はm<sup>3</sup>当たりの数  
 ※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値



※カイアシ類量は、プランクトン採集量(沈殿量)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出しています。餌料環境の目安としてご参照ください。



※カブトクラゲは丸特Bネットによる全定点の平均採集数。その他はH1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。  
 ※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。



※H1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。

※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。